

はしがき

■編集の趣旨

この『10日で確認 新チェックノート』シリーズは、国語の主要分野について、短期間で集中的に知識の整理・確認をすることを目指して編集しました。

したがって、受験直前における知識の最終確認、少し早めの苦手分野の克服などに使用すると効果的です。

本書はこのシリーズの一冊として、「日本文学史」全般の重要な事項をまとめました。

■本書の特長

- 1 学習目標ごとに時代とジャンルを目安に区切り、一日分を4ページに收めました。集中して学習するのに適当な分量と思われます。
- 2 一日でポイントが分かり、知識の整理がしやすいよう、表覧形式をとりました。
- 3 上代から近世までは、【作品】【作者】【ここがポイント】の順に、近代は原則として、【作者】【作品】【ここがポイント】の順に記しています。

『三 次』

編著者

ます。

4 【ここがポイント】には、主に作品について必要な知識をコンパクトにまとめました。特に重要な部分は太字にしてあります。

5 文学史の学習は、ジャンル別・成立年代順に整理してゆくことが大切です。便宜上時代で区切られていますが、時代をこえて連続させながら覚えましょう。

6 補遺として、「近代の詩歌」を載せました。本文の続きとして、これも合わせて理解してください。

7 本書はあえて問題形式にしなかったので、別冊には、【大学入試問題選】と【主要作品冒頭文】を收めました。有効に活用してください。

本書によって、文学史の重要な知識が確実に身に付くことを期待しています。

第1日	上代の文学・中古の文学(1)	詩歌・日記・隨筆	4
第2日	中古の文学(2)	物語・歴史物語・説話	
第3日	中世の文学(1)	詩歌・隨筆・日記	
第4日	中世の文学(2)	歴史物語・軍記物語・説話・評論	
第5日	近世の文学(1)	小説	
第6日	近世の文学(2)	詩歌・劇文学・隨筆	
第7日	近代の文学(1)	啓蒙期の文学～自然主義	
第8日	近代の文学(2)	鷗外と漱石　耽美派・白樺派	
第9日	近代の文学(3)	芥川龍之介 新思潮派～新心理主義	
第10日	近代の文学(4)	転向文学～第二次戦後派	

上代の文学・中古の文学(1) 詩歌・日記・隨筆

1 上代の文学

2 中古の文学

このがポイント

作品	作(編)者
□ 古事記	稗田阿礼 誰習
□ 日本書紀	舍人親王 編
□ 風土記	太安万侶 撰録
□ 万葉集	大伴家持 (最終的な編者)
□ 懐風藻	撰者未詳

元正天皇の命で舍人親王が中心となり編集した。『古事記』に比して史実に重点を置き、異伝を記すなど歴史書的要素が強い。六国史の最初の作で、純粹の漢文叙事文学。**(成立)** 和銅五年(七二〇)。

和銅六年(七一三)の勅命に応じて、諸国から撰進された地誌的記録。その国の產物、地名の由来、神話・伝説などを記す。完全な形で残るのは、「出雲國風土記」(島根)のみ。他に常陸・播磨・豐後・肥前の一部が残っている。
--

現存する最古の歌集。全二〇巻。総歌数約四五〇〇首。その内、短歌が約四二〇首。長歌が約二六〇首。旋頭歌が約六〇首。基本的には、①雄歌、②相聞、③挽歌の三大部立。代表歌人は、一期=額田王、二期=柿本人麻呂、三期=山上千穂良、山部赤人、四期=大伴家持。東歌、防人歌も含まれる。

大友皇子、安倍仲麻呂ら上流知識人六四人の詩約一二〇編を収録した。現存するわが国最古の漢詩集。**(成立)** 天平勝宝三年(七五二)。

嵯峨天皇の勅命で撰ばれた、わが国最古の勅撰詩集。「凌雲新集」とも。詩数九一首。作者二十四人。 (成立) 弘仁五年(八一四)。

嵯峨天皇の勅命で撰ばれた、第三の勅撰詩集。全二〇巻、作者一七八人、詩文一〇〇〇余とされるが、現存は六巻のみ。 (成立) 天長四年(八二七)。

淳和天皇の勅命で撰ばれた、第二の勅撰詩集。詩数一四八首。作者二八人。 (成立) 弘仁九年(八一八)。

「天神様」菅原道真の、太宰府左遷以前の作を集めた詩文集。一二卷。 (成立) 昌泰三年(九〇〇)。左遷後の作は『菅家後集』一巻に収める。
--

平安後期の詩文集。一四巻。嵯峨天皇から後一条天皇まで一七代二〇〇年間の詩文四二七編を収める。 (成立) 一一世紀中期。
--

2 勅撰漢詩集・漢詩文集

□ 古今和歌集	紀貫之 河内躬恒撰	小野岑守	藤原冬嗣	凌雲集
□ 文華秀麗集	良岑安世	ほか編	菅原道真	古今和歌集
□ 経国集	ほか編	ほか編	菅原道真	文華秀麗集
□ 本朝文粹	藤原明衡編	菅原道真	菅原道真	経国集
□ 後撰和歌集	忠岑ら。 (成立) 延喜五年(九〇五)。	忠岑ら。 (成立) 延喜五年(九〇五)。	忠岑ら。 (成立) 延喜五年(九〇五)。	本朝文粹

醍醐天皇の勅命で撰ばれた、最初の勅撰和歌集。歌数約一一〇〇首。歌集冒頭の紀貫之作「仮名序」は、最初の本格的文学論として重要。また、巻末に紀淑望作の「真名序」(漢文の序)がある。時代区分は、一期=よみ人知らずの時代、二期=六歌仙の時代(在原業平、小野小町ら)、三期=撰者の時代(紀貫之、壬生忠岑ら)。**(成立)** 延喜五年(九〇五)。

3 勅撰和歌集他

□ 後撰和歌集	梨壺の五人撰	花山院?撰
□ 後撰和歌集	忠岑ら。 (成立) 延喜五年(九〇五)。	忠岑ら。 (成立) 天暦五年(九五一)。
□ 後撰和歌集	忠岑ら。 (成立) 天暦五年(九五一)。	花山院、あるいは院の下命による撰者に撰ばれた、第三の勅撰和歌集。詞書が長くな歌風が特徴。 (成立) 寛弘二年(一二〇五)ころ。以上が三代集。

拾遺和歌集

花山院、あるいは院の下命による撰者に撰ばれた、第三の勅撰和歌集。詞書が長く

な歌風が特徴。**(成立)** 寛弘二年(一二〇五)ころ。以上が三代集。

花山院、あるいは院の下命による撰者に撰ばれた、第三の勅撰和歌集。詞書が長く

な歌風が特徴。**(成立)** 寛弘二年(一二〇五)ころ。以上が三代集。

□ 後拾遺和歌集

白河天皇の勅命で撰ばれた、第四の勅撰和歌集。和泉式部、相模、赤染衛門、伊勢大輔など女流歌人が目立つ。**(成立)** 応徳三年（一〇八六）。

□ 金葉和歌集

白河法皇の院宣で撰ばれた、第五の勅撰和歌集。おかしみの強い歌から格調高い

□ 詞花和歌集

崇徳上皇の院宣で撰ばれた、第六の勅撰和歌集。清新な表現、清新な叙景の歌が多い。**(成立)** 大治二年（一一二七）。

□ 千載和歌集

歌まで多様な歌風が混在する。**(成立)** 仁平元年（一一五一）。

□ 山家集

後白河法皇の院宣で撰ばれた、第七の勅撰和歌集。しみじみとした抒情、余情美

□ 源家集

が中核をなす。**(成立)** 文治四年（一一八八）。

□ 西行記

中古末の代表歌人西行の家集。生涯のほとんどを旅に過ぎし、自然愛・人間愛のこもったすぐれた和歌を残す。**(成立)** 一二世紀後期。

□ 歌謡

藤原通俊撰

藤原俊頼撰

□ 和漢朗詠集

藤原顕輔撰

□ 梁塵秘抄

藤原俊成撰

□ 土佐日記

西行撰

□ 紫式部日記

藤原公任撰

□ 和泉式部日記

藤原道綱母撰

□ 紫式部

藤原貴之撰

□ 紫式部

藤原兼家とその二年間にわたる結婚生活の愛と苦悩を、私小説風に描いた回想的日記。虚構を中心とする物語に対し、作者の内面の真実を告白してみせた。最初の

□ 藤原道綱母

藤原道綱母とその二年間にわたる結婚生活の愛と苦悩を、私小説風に描いた回想的日記。虚構を中心とする物語に対し、作者の内面の真実を告白してみせた。最初の

□ 蜻蛉日記

藤原道綱母とその二年間にわたる結婚生活の愛と苦悩を、私小説風に描いた回想的日記。虚構を中心とする物語に対し、作者の内面の真実を告白してみせた。最初の

□ 和泉式部

藤原道綱母とその二年間にわたる結婚生活の愛と苦悩を、私小説風に描いた回想的日記。虚構を中心とする物語に対し、作者の内面の真実を告白してみせた。最初の

□ 紫式部

藤原道綱母とその二年間にわたる結婚生活の愛と苦悩を、私小説風に描いた回想的日記。虚構を中心とする物語に対し、作者の内面の真実を告白してみせた。最初の

□ 讀岐典侍日記

藤原長子とその二年間にわたる結婚生活の愛と苦悩を、私小説風に描いた回想的日記。虚構を中心とする物語に対し、作者の内面の真実を告白してみせた。最初の

□ 讀岐典侍日記

藤原長子とその二年間にわたる結婚生活の愛と苦悩を、私小説風に描いた回想的日記。虚構を中心とする物語に対し、作者の内面の真実を告白してみせた。最初の

□ 枕草子

藤原長子とその二年間にわたる結婚生活の愛と苦悩を、私小説風に描いた回想的日記。虚構を中心とする物語に対し、作者の内面の真実を告白してみせた。最初の

6 隨筆

長短約三〇〇段から成る隨筆文学最初の作。中宮定子を中心とした宫廷生活の体験や、自然や人事についての感想などが自由に書き綴られる。それらは類集的章段、日記的章段、隨想的章段の三つに分類される。『源氏物語』の「ものあはれ」に対しても、「をかし」の文学として、文学史上高い評価を得ている。

(成立)

長保三年（一〇〇一）までに初稿本成立。